

令和2年度学力向上推進会議

ちばっ子「学力向上」総合プラン
(ダブル・アクション+ONE)

評価表

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

Action1 目指す姿

「自ら課題を持ち 多様な人々と協働し 粘り強くやり抜く子」

【評価項目】 児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】 ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

事業担当者による自己評価

ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

		2-1	3-1	3-2	4-2	6-1	6-2	視点ごとの評価
		遣「千葉県 事業の充 実の充実 サポーター」派	「特別 非常勤 講師」の 配置	業「小・中・ 高」による 体験学 習の特別 充実授	の外国語 指導助手 (ALT)等	充ICTを 活用した 学習指導 の	個に応じた 学びの推 進	
児童 生徒	自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか		a					a
	多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか		a	a	a	b		a
	協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか					b		b
	活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか		a				b	a
	見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか			b				b
県教委	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか	a					b	a

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

	1-1	1-2	1-3	4-1	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	視点①の評価
	ちばっ子チャレンジ100(小学校)	ちばのやる気学習ガイド(中学校)	「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進	ICT(学習支援ソフト)の活用	「SSH」の活用	「SGH」の活用	「SPH」の活用	「科学の甲子園」「科学の甲子園ジュニア」大会の開催	進学指導重点校(高校)における教育活動の充実と普及	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a			b					a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか					b				b
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか						a		b	a
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか							b		b
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか								a	a
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか		a		b					a
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか		a	a		b				a
	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか	a								a
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか			a				b	b	b
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか								a	a

学力向上プロジェクト会議による関係者評価

*千葉県教育庁関係課・関係機関の職員による評価

評価の 観点	学力向上プロジェクト会議からの意見	評価
ア	<p>学習サポーターの配置や外部講師、小中校連携等による人的配置により、きめ細かな指導の工夫や体験活動が充実している。結果として、児童生徒の学習意欲の高まりや、多様な価値観に触れる貴重な機会となっていることがうかがえる。(アンケート調査等より)</p> <p>今後より一層、地域人材の活用により児童生徒の学習意欲の向上につながっていくことを期待したい。</p>	a
イ	<p>新型コロナウイルス感染症の対策により、オンラインでの交流の場や学習教材等の需要の高まりに応じて環境整備が進められ、児童生徒の学習の支援や充実につながっている。</p> <p>感染予防対策を講じつつ、多様な学習の場を提供できるよう工夫・改善を図ってほしい。</p>	a
<p>【Action 1 について】</p> <p>内容や実施方法を工夫改善することで、児童生徒の主体的な学習につながっている事業が多くみられる。アンケート結果や活用状況等を基に更に工夫を重ねるとともに、各事業のよさが広く学校や家庭に周知されるとともに、より一層、新しい生活様式に対応した取組となることを期待したい。</p> <p>各事業評価に当たっては、児童生徒自身が意欲の向上を自覚できたか等、子供主体の評価が中心となるべきである。次年度は評価の視点について、各事業の関連性を整理し、柔軟にアクション全体を調整して必要があるだろう。</p>		

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観点	学力向上推進会議からの意見
ア	<p>学習サポーターの配置は、学校でのきめ細かな指導につながった。</p> <p>A L T や I C T を活用した学習指導については、学校等のネットワーク環境の整備状況を注視しながら、オンラインの効果的な活用を推進することで、多くの教員が関われるよう、事業の運営を工夫し、更なる学力向上につなげることを期待する。</p> <p>魅力ある専門分野の人材活用については、効果的に活用されていることがうかがえる。外国語教育やプログラミング教育の推進に向けて、優れた知識や技能を有する人材活用をより一層進める。</p>
イ	<p>「ちばっ子チャレンジ100」や「ちばのやる気学習ガイド」の積極的な活用を進めている。これらが、児童生徒の主体的な学習につながるよう、オンラインでの解答ができるシステムの構築を期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度については、中止になった事業が多かったが、オンラインの活用など新たな視点で事業を企画運営する必要がある。</p>
<p>【Action 1 について】</p> <p>全体として、事業の推進が子供の学ぶ意欲の向上を図る取組となっている。したがって、継続して取り組むことが重要である。</p> <p>また、1人1台端末環境の整備に伴い、I C T 活用を更に充実していく必要がある。</p> <p>さらに多くの子供たちが「学ぶことが楽しい」と感じられるよう、オンラインを活用した千葉県独自教材や「学習サポーター」等の専門性を有した優れた人材を積極的に活用し、学ぶ意欲を高めるとともに、各事業の良さを学校や家庭に広く周知するよう広報活動を進めることを期待する。</p>	

Action2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢をもち 授業を工夫する教員」

【評価項目】 教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】 ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

事業担当者による自己評価

ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

		8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	視点1との評価
		ム高「 」の活 用促進 モデル プログラ を	「学力 向上交 流会」 の開催	証指「 校定ち ）ばっ （子 「学 力・ 学 習 状 況」 研 究 検	タ「授 業 づ く り コ ー デ ィ ネ ー 」 の 認 定	進「私 の 授 業 レ シ ピ 」 の 活 用 促	
教 職 員	児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、 教材を工夫したか					b	b
	授業改善に向けて「実践モデルプログラ ム」を意識することができたか		a				a
	授業改善に向けて「実践モデルプログラ ム」を活用したか	b		a	b		b

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

	7-1	8-2	8-3	9-1	9-2	9-3	10-1	10-2	10-3	11-1	11-2	11-3	視点ごとの評価	
	用促進 「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活	「学力向上交流会」の開催	証校） 「ちばっ子の学び変革」研究指定（「学力・学習状況」検	「授業づくりコーディネーター」の認定	「私の授業レシビ」の活用促進	U10学びの未来づくり	優良・優秀学校図書館の認定	学校図書館活用に関する研修の実施（新任校長研修）	学校図書館活用に関する研修の実施（公立図書館連携研修）	研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の運用	授業力を高めるための理論的・実践的な研修	校内研究モデルプラン」、eラーニングによる効果的な 校内研修等の推進		
教職員	授業改善に資する学校図書館の環境整備を行ったか						b	b	—				b	
	授業改善に向けて前向きに協議や研修を行ったか				b					b		b	b	
	授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか				b								b	
	授業改善の手段として学校図書館を活用したか						b	b	—				b	
	授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか		a			b						b	b	
	授業改善の効果を実感することができたか			a			—							a
	進んで授業改善を行おうと意識することができたか	b		a			—					b	b	b

学力向上プロジェクト会議による関係者評価

*千葉県教育庁関係課・関係機関の職員による評価

評価の観点	学力向上プロジェクト会議からの意見	評価
ウ	<p>各教育事務所主催の学力向上交流会では、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年通りの実施はできなかったものの、オンラインとしたことで、参加者も増加し、実践モデルを軸とした幅広い事例紹介等が、効果的に実施されている。また、検証協力校では実践モデルをしっかり位置付け、授業改善に取り組む事例が多く見受けられる。</p> <p>今後より一層オンライン研修を充実させるとともに、実践モデルプログラムを意識して授業改善に取り組めるよう、事業間の連携を図っていくことを期待する。</p>	b
エ	<p>教員が研修を通して得たことを授業実践し、その成果を実感することができていることがうかがえる。また、多様な研修を提供するとともに、システムの環境整備も充実してきた。</p> <p>今後は研修履歴システム（Asttra）を効果的に活用するとともに、今年度培ったオンラインの強みを生かし、各種研修の充実を図ることで、一層の教員の授業力向上を図ってほしい。</p>	b
<p>【Action 2 について】</p> <p>実践モデルプログラムや「全国学力・学習状況調査」の分析結果を活用した授業改善が、各学校で定着してきている。今後は、学力向上に成果のあった実践を、幅広く共有することで、県内の教員の更なる授業力向上に期待したい。</p> <p>また、教職員の研修においては、研修履歴システム（Asttra）の全面運用が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に大いに役立っている。今年度、得られた知見を生かし、オンラインを活用した研修等を企画・運営することで、学び続ける教職員の支援を継続して行ってほしい。</p>		

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観点	学力向上推進会議からの意見
ウ	<p>実践モデルプログラムにより授業改善が推進されている。全ての小中学校で積極的に取り組めるよう、学校への周知を一層進めていくことを期待する。</p> <p>「学力向上交流会」をオンライン開催するなど、多くの教員が参加できるよう、会議の在り方を検討する。また、「授業づくりコーディネーター」活用事業における授業動画の作成は、子供の学びを保障し、学校はもとより、各市町村教育委員会にとっても有効な事業となった。</p>
エ	<p>「全国学力・学習状況調査」の分析は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の柱となる。分析ツールの活用率100%に向け取り組む必要がある。</p> <p>「学校図書館活用推進事業」は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に資する事業である。教員の「図書館活用」をより一層促し、「学習・情報センター」としての更なる機能充実を進める。</p> <p>研修履歴システム(Asttra)の運用により、教員の研修計画立案に生かすことができる。eラーニング等のオンラインを積極的に活用し、各種研修の充実・見直しを図り、教員の授業改善につなげることを期待する。</p>
<p>【Action 2 について】</p> <p>各学校での授業改善に向けた取組を推進するために、「全国学力・学習状況調査」の分析や研修履歴システム(Asttra)やeラーニング等の活用を、より一層推進するとともに、コロナ禍で見えてきた新しい視点を取り入れ、各事業の工夫・改善に期待する。</p> <p>事業内容を学校や家庭に周知する方法として、ウェブの活用と同時に、SNSを併用するなど、様々な年代に対して情報の発信を行うことを検討する。</p> <p>千葉県教育のさらなる充実に向け、Action 1（児童生徒）とAction 2（教員）の事業を、相互に補完させながら推進することを期待する。</p>	

【総合評価】ちばっ子「学力向上」総合プランの全体評価

(学力向上推進会議による総合プランの全体評価)

- 【評価の観点】
- I 各アクション、各事業の評価は適切か
 - II 前年度の評価等を活かした事業内容の改善の成果は上がっているか
 - III ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上しているか
 - IV ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っているか

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議からの意見
I	各アクション及び各事業について「事業担当者による自己評価」「学力向上プロジェクト会議による関係者評価」「学力向上推進会議による第三者評価」の内容が一致しており適切に評価が行われていると判断できる。
II	前年度の評価等を生かした事業内容の改善について、事業相互の関連も踏まえながら内容や実施方法の改善が実施されており、成果が上がっていると判断できる。
III	コロナ禍においても、人的配置の工夫、ICT等教育環境の整備、活用が行われており、ちばっ子「学力向上」総合プランによって児童生徒の学ぶ意欲が向上していると判断できる。
IV	オンライン研修で参加者が増え授業改善が図られたり、研修履歴システムの活用で教員の研修履歴を把握したりするなど、ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員の授業改善が進展していると判断できる。

【ちばっ子「学力向上」総合プランについて】

ちばっ子「学力向上」総合プランについては、五つのアクションを「子供」「教員」の二つのアクションに再編したことによって、学力向上に関する取組や事業相互の関係が明確になった。今後、アクション同士の相互補完を図り、一層の充実を期待したい。